

1.4 風穴

清水（2012）によれば、風穴とは山の斜面から自然の冷風が吹き出す場所のことです。山間部に暮らし自然と共生していた先人たちが見逃すはずはなく、江戸時代の中頃から天然冷蔵庫として利用してきました。明治～大正時代には、蚕種（蚕の卵）の貯蔵所として風穴が注目され、全国の山々に280箇所以上の天然冷蔵庫（風穴）が造成され、当時の蚕糸業の振興に大いに貢献しました。今ではそれらの多くが忘れられ、破壊が進み、山の中に埋もれている場所も少なくありません。

図1.16は、清水・澤田（2015）に示された地すべり・崖錐と風穴の模式断面図です。地すべりは斜面が大きな塊となってすべり下る現象で上部

に急な滑落崖、下部に緩い移動体からなります。滑落崖側の岩盤には地すべりに伴って多くの割れ目（開口節理）を生じ、それが風穴となることがあります。崖錐は上部に急崖があり、そこから崩落した岩屑が斜面下部に堆積したもので、岩屑の

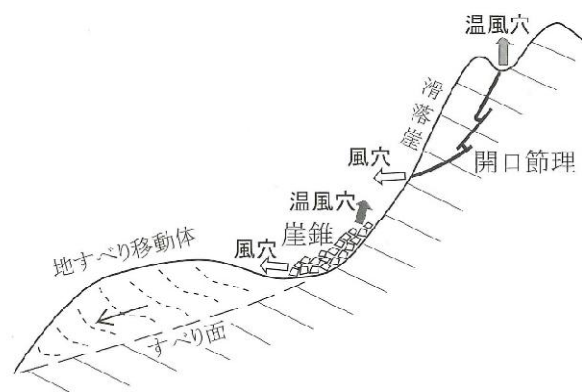


図1.16 地すべり・崖錐と風穴の模式断面図
(清水・澤田, 2015)

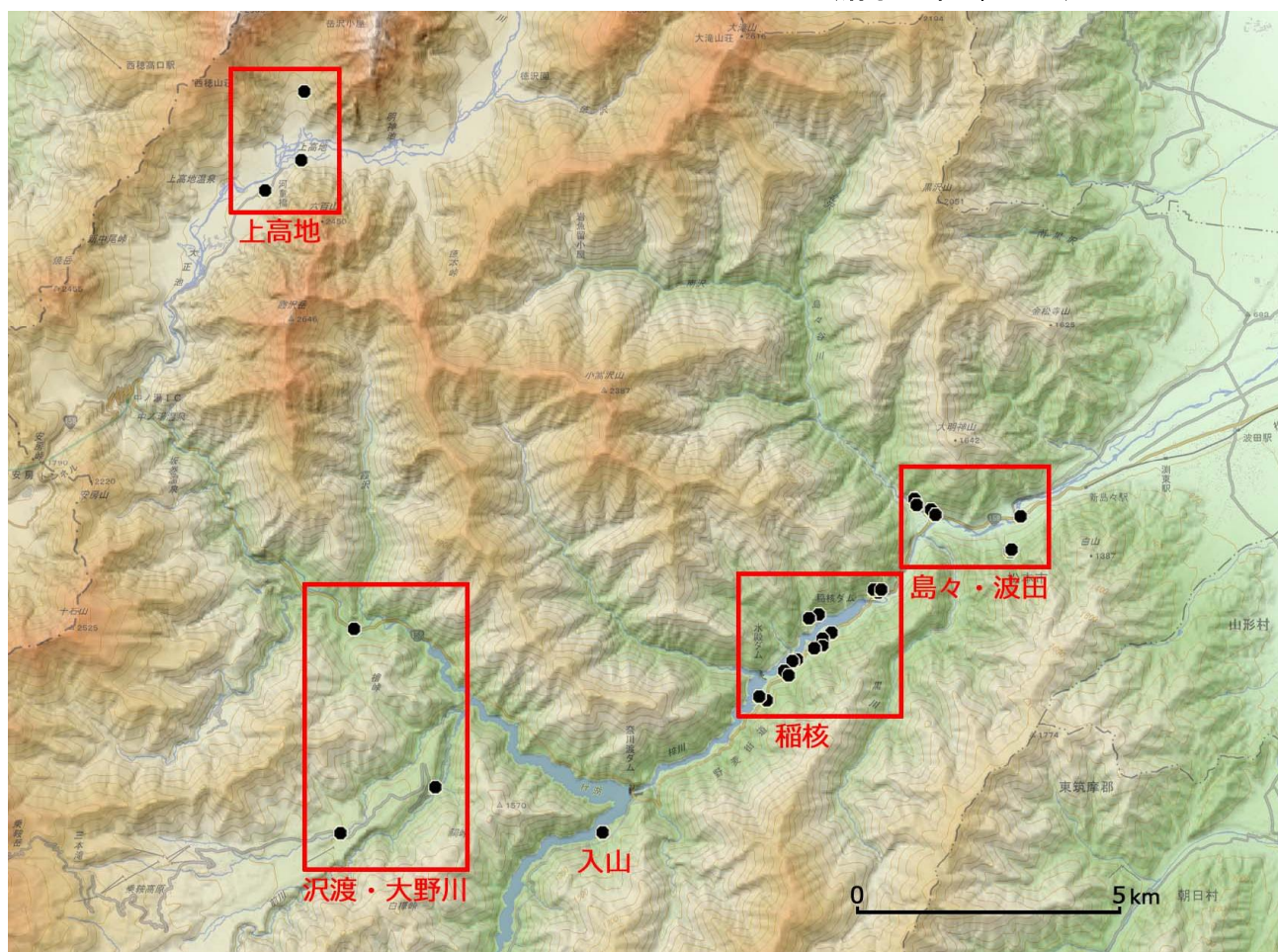


図1.17 梓川流域の風穴の分布図（稲核風穴研究会 有馬正敏会長提供の資料をもとに作成）
(地理院地図「標準地図」, 国土地理院基盤地図情報をもとに編集)

すき間が風穴となります。通例では、夏季を中心として下方の穴から冷風、冬季には上方の穴から温風が吹き出します（柿下・大塚，2012a,b）。

図 1.17 は、梓川流域の風穴分布図で、稲核風穴研究会の有馬正敏会長と道の駅「風穴の里」の川上一治駅長の資料をもとに作成したものです。図 1.18 は、図 1.17 の稲核付近の拡大図です。

松本から上高地へ行く国道 158 号沿いにある道の駅「風穴の里」付近には国道の山側に沿って、多くの風穴があります。道の駅の 200m 東側に安曇資料館があり、その山側に見学用風穴があります。戸を開けて中に入ると山側の壁は取り除かれ、崖錐層の巨礫が一面にあり、夏場でも 6～7 度の冷気を体験できます。この建物は、60 年位前に営林署が苗木の保存用に使っていました。この小屋を、地元の稲核町会が譲り受け、2008 年に整備し直したものです。中には冷蔵のサンプルとして清酒が置かれています。安曇資料館には旧安曇村の歴史資料や風穴を解説したパネルが展示されています。

図 1.19 は、松本市ハザードマップ（防災マップ）の「40 安曇(稲核)地区」で、令和 6 年(2024)



写真 1.7 見学用風穴と野麦街道, 2024 年撮影



写真 1.8 見学用風穴の内部と冷風が吹き出す崖錐堆積物, 2024 年撮影

4 月に公表されたものです。稲核の風穴が多く分布する地区ですが、多くが土砂災害警戒区域（急

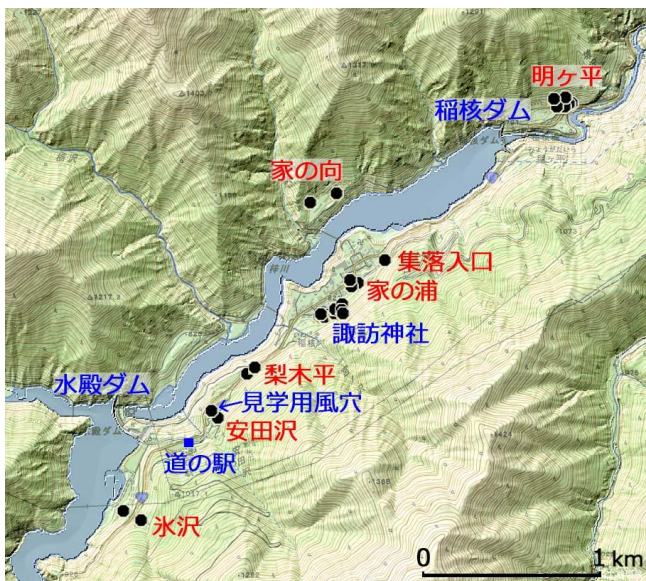


図 1.18 稲核地区の風穴分布図
(稲核風穴研究会 有馬正敏会長の資料をもとに作成)
(地理院地図「標準地図」, 国土地理院基盤地図情報をもとに編集)

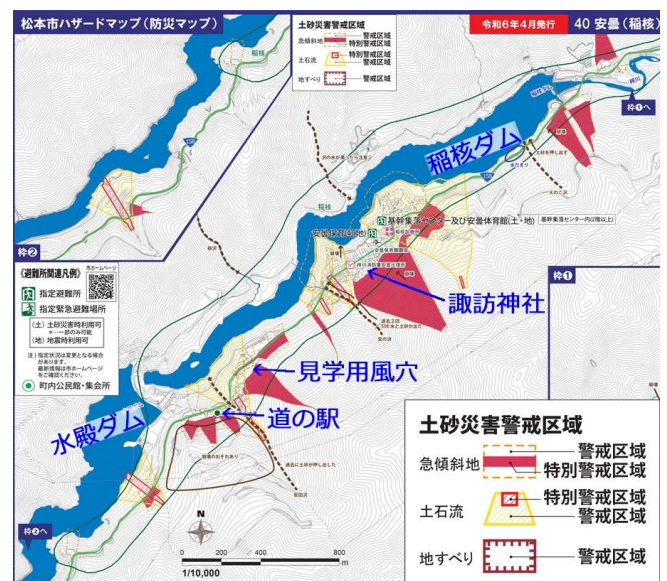


図 1.19 松本市ハザードマップ(防災マップ) 40 安曇(稲核)地区 (令和 6 年 4 月発行) に加筆

傾斜地・土石流) となっています。有馬会長の話では、「今までに大きな土砂災害はなかったが、落石などは時々発生していた」とのことでした。今後の風穴小屋の利用に関しては、注意しておくべき点です。

見学用風穴から東に 1km の区間までに稲核の集落があります。諏訪神社を中心として多くの風穴小屋が斜面に沿って並んでいます。諏訪神社の前には、松本から島々・橋場、入山を通して野麦峠へ抜ける野麦街道が通っています。

明治・大正時期には、諏訪湖畔の岡谷で生糸産業が盛んで、風穴では大量の蚕種（蚕の卵）が貯蔵されました。飛騨から多くの女工が野麦街道を通行して行きました（映画『あゝ野麦峠』）。

図 1.20 は島々・波田地区の風穴分布図です。

図 1.21 は上高地地区の風穴分布図です。

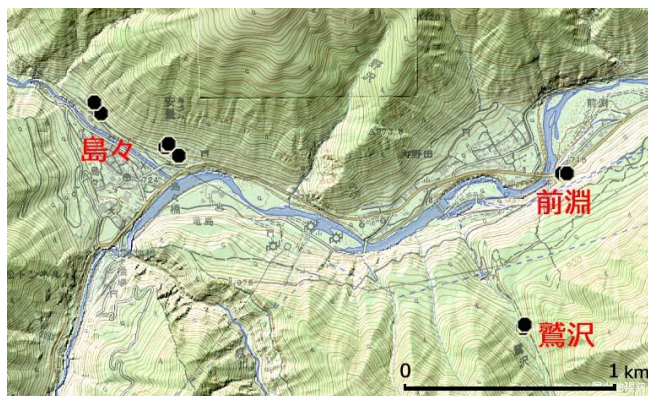


図 1.20 島々・波田地区の風穴分布図（稲核風穴研究会 有馬正敏会長の資料をもとに作成）
（地理院地図「標準地図」，国土地理院基盤地図情報をもとに編集）

図 1.22 は、高瀬川流域の風穴分布図で、NPO 地域づくり工房・傘木宏夫代表理事の資料をもとに作成したものです。風穴の詳細については、清水（2012,14a,14b,18,20,21a,21b）の「地図中心」の日本風穴紀行 No.1,26,27,71,85,95,98 をご覧下さい。



図 1.21 上高地地区の風穴分布図（稲核風穴研究会 有馬正敏会長提供の資料をもとに作成）
（地理院地図「標準地図」，国土地理院基盤地図情報をもとに編集）



図 1.22 高瀬川流域の風穴分布図（NPO 地域づくり工房・傘木宏夫代表理事の資料をもとに作成）
（地理院地図「標準地図」，国土地理院基盤地図情報をもとに編集）